第8回韓日未来フォーラム

参加報告書

法政大学3年　三澤明紀

・話し合いについて

日韓問題に関するニュースや記事を目にするにつけ、歴史の中での互いの国を見る目や、その認識のズレを感じていたことをきっかけに二カ国の関係について興味があり、今回のフォーラムに参加しようと思った。実際に同じように日韓の未来を見届けるであろう、もしくは日韓の未来に関わるであろう私と同じ世代はどのような考えを持っているのか知ることができると考えたからだ。私がこのフォーラムに参加するまでの、日韓関係の知識は新聞や現代社会の授業で触れる程度だった。改まって深く考える機会もなかったし、普段はタブー視されていることからそもそもこの話題に触れる機会がなかった。しかし、このフォーラムで触れにくい部分に踏み込んで考え、さらに意見を交換できる場として私にとっては大変有意義な体験だったと思っている。

私のグループでは、「日韓の教育」というテーマが議題だった。韓国の教育を聞いて、おなじ内容を教育するにあたって、こんなにも差が出るものかと大変おどろいた。韓国の反日感情にはこれまで勉強してきた知識やそれに基づいた意見がある一方で、日本の嫌韓感情はなんとなくという雰囲気に扇動されたものである。お互い良い感情を抱いていないという共通点がありながらも、その過程は全く逆であったことが、私にとってたいへん印象的だった。

そこから、両国の教育を教科書や博物館といった成果物を作るということで可視化することが私たちの提案だったのだが、その過程で両国の教育に必要であるものを問いつづけることで、教育という視点から両国に求められる関係や在り方を考えることができたと思っている。

　日韓問題に関するニュースや記事を目にするにつけ、歴史の中での互いの国を見る目や、その認識のズレがあること、その一方でアジアを牽引する先進産業国として両国には協働することが必要となると言われている。いまの摩擦を解消することは簡単ではないし、解決にはまだまだ長い時間がかかるだろう。しかし、今回のフォーラムのように各々が問題に取り組む機会が増えれば、これらの衝突を最小限に抑制することが可能であること、ひいては関係改善は可能であることが改めて強く感じられたフォーラムだった。

・韓国について

　今回、韓国の訪問したのははじめてだった。訪日韓国人が多いことは普段の生活のなかで実感していたが、一方で訪韓日本人が多いことも実感させられた。ニュースなどで目にしてきたが、駅や店の日本語表示、窓口の日本語対応などを実際に目にすると、東京がそうであるように日本国内のようにも思えた。日本で外国人観光客が一部で嫌悪されるイメージが頭にあり、自分もそのような目で見られていると思っていたのだが、あくまでソフトパワー面での問題なのではないかと考えさせられた体験だった。

　また、今回のフォーラムへの参加メンバーについても、日韓の関係について考えさせられるものがあった。私は韓国の音楽やドラマなどに詳しくないのだが、周りの日本人学生はK－POPが好きだ、韓流ドラマや韓流俳優が好きだという人が多く、5年ほど前に突如消えたと思っていた韓国ブームがこんなにも支持され続けていたのか、はたまた新たにまた流行してきたのか、支持層がこんなにも多いものなのだと大変驚かされた。また、韓国人学生と話しても、日本のアニメが好きだ、日本の映画を見たという話を聞いて、文化の面において全く軋轢や摩擦はないのかもしれないと、思いなおす体験だった。

　そして、何よりも同じ世代の人が集まったあの空間で、国籍など関係なしに交流していた光景がなによりも印象的だ。日韓問題という議題がなぜ未だにあるのかと疑問を抱くほど、フラットな空気だったと個人的に感じている。国籍などの壁を私は一切感じなかったし、私たちはただただ同年代でみんな同じような人なのだと直感的に思った。

 フォーラムという形で話し合いに参加できたことと同じくらい、このような交流の機会で気づきがあったことに大きな意義を感じている。実際に、あの場に身を置くことで自分が知らなかったこと、知っていても実感できなかったこと、新たに気づかされたことがふとした拍子にあったし、私にとって大きな収穫だった。このフォーラムに参加したことを生かして、文化的活動に関心をもつという立場で両国間に何らかの橋をかけたり、お互いを理解する術を保っていったりしたいと思ったし、そのための方法を探っていくことが今後、私が取り組むべきことなのだろうと考えている。